

『日本の民家 一九五五年 二川幸夫・建築写真の原点』展

1 趣 旨

1957年から59年にかけて発行された『日本の民家』（撮影・二川幸夫 文・伊藤ていじ）全10巻は、日本が国際的な経済発展に向けて飛躍しようとしていた頃に、あえて民家の最期の美しさにカメラを向けて、世間を瞠目させました。大地とつながる民家の力強さ、そしてそこに蓄積された民衆の働きと知恵をとらえた280点のモノクロ写真は、現在、国際的に高く評価される二川幸夫が20歳前後に撮影したものです。文章は当時新鋭の建築史家、伊藤ていじ（1922-2010）が著しました。

二川幸夫（1932-2013）は確かな評価眼を通して見たものを建築写真として定着し、自ら主宰する出版社を中心に発表しました。優れた建築を追って世界中を駆け巡り、比類のない作品を精力的に残してきた彼の建築の旅の原点は、この『日本の民家』にあります。

本展は、1955年にさかのぼって、若き日の二川幸夫がとらえた貴重な民家の姿、そして日本人の本来の逞しさとしなやかさを、選び抜いた約70点の作品により紹介します。

2 展覧会概要

（1）名 称 『日本の民家 一九五五年 二川幸夫・建築写真の原点』展

（2）会 期 2013年12月14日(土)～3月30日(日)
休 館 日：12/29-12/31、1/14、1/27、2/3-2/7、2/24、3/10

（3）会 場 青森県立美術館 企画展示室

（4）観覧料 一 般 700円（600円）高大生 500円（420円）
小中生 200円（160円） ※（ ）は20名以上の団体料金
★期間中における常設展とのセット料金を1,000円で販売。

（5）主 催：日本の民家展実行委員会
青森県写真連盟、一般社団法人青森県建築士会女性委員会、青森県立美術館

4 展示構成

二川幸夫撮影・伊藤ていじ文『日本の民家』（1962年、美術出版社）より選定した代表的作品を新たな大型プリントで展示。総作品数72点。

※二川幸夫（ふたがわ・ゆきお）

1932（昭和7）年－2013年、大阪市生まれ。大阪市立都島工業高校を経て1956年早稲田大学文学部卒業。在学中に建築史教授の田辺泰の勧めで民家と出会い撮影を始め、1957-59年、美術出版社から『日本の民家』全10巻（文：伊藤ていじ）として発表する。1959年同著で毎日出版文化賞受賞。1970年、建築書籍専門の出版社A.D.A.EDITA Tokyo Co., Ltd.を設立し、今日に至るまで世界の建築を撮影し発表している。2013年3月5日逝去